

自ら体を動かそうとする意欲を高める環境構成と援助の工夫

～友だちと運動遊びに取り組む活動を通して～

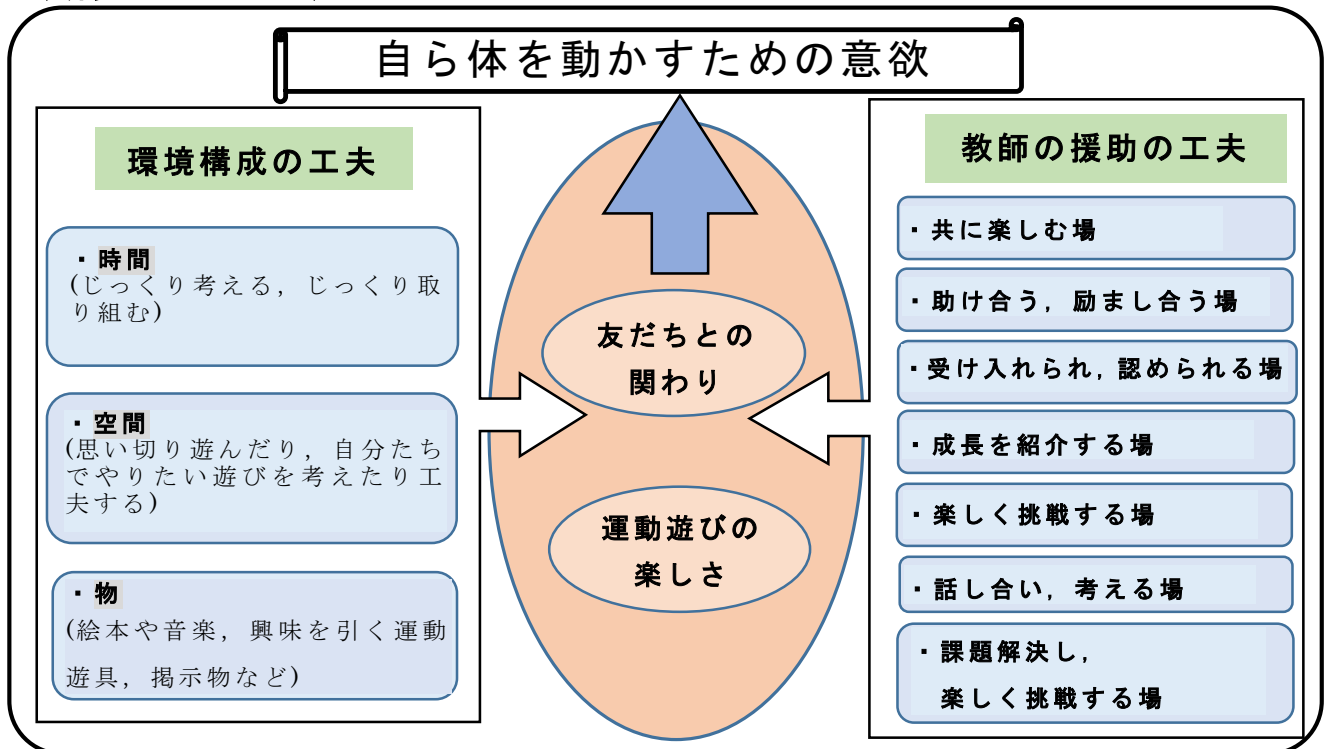
那覇市立城岳幼稚園教諭 前泊 貴子

〈研究の概要〉

幼稚園教育要領に、「十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること」という一文が付け加えられたことから、幼児が興味関心を持った遊びを通して自ら体を動かそうとする意欲を育てていくことが大切だと考える。

そこで本研究では、時間・空間・物を工夫し、共有したイメージで運動遊びができるようにしたり、友だちとの関わりを広げる場を工夫し援助をすることで、自ら体を動かそうとする意欲を高めるための実践を行った。

〈研究のイメージ〉



〈研究の成果〉

- 幼児は、運動遊びを通して、受け入れられたり、励まされたり、協力したりしながら互いに関わりを持つことで、友だちと遊びを展開する面白さを感じ、意欲的に運動遊びをすることが検証できた。
- 時間・空間・物を工夫し運動遊びと結びつけ、友だちと助けあったり挑戦し合ったりすることで、運動遊びの楽しさや充実感を味わわせることができ、自ら体を動かそうとする意欲を高める手立てとなった。

目 次

I	テーマ設定の理由	25
II	研究目標	25
III	研究構想図	26
IV	研究内容	26
	1 幼児期における運動と意欲	
	2 意欲を高めるための視点	
	3 自ら体を動かそうとするための工夫	
	(1) 環境構成の工夫	
	(2) 教師の援助の工夫	
V	保育実践	28
	1 保育計画	
	2 実践 1 (12 月 1 週目)	
	(1) 教師の援助と環境構成	
	(2) 幼児の様子	
	(3) 考察	
	3 実践 2 (12 月 2 週目)	
	(1) 教師の援助と環境構成	
	(2) 幼児の様子	
	(3) 考察	
	4 実践 3 (12 月 3 週目)	
	(1) 教師の援助と環境構成	
	(2) 幼児の様子	
	(3) 考察	
	5 個に応じた援助を通して(個の変容から)	
VI	研究のまとめ	31
VII	成果と課題	32
	1 成果	
	2 課題	

《参考文献・引用文献》

自ら体を動かそうとする意欲を高める環境構成と援助の工夫

～友だちと運動遊びに取り組む活動を通して～

那覇市立城岳幼稚園 前泊 貴子

I テーマ設定の理由

文部科学省は『幼児期運動指針ガイドブック』(H24)において、幼児にとっては、様々な遊びを中心に毎日合計 60 分以上、楽しく体を動かすことが大切であると示した。

早稲田大学人間科学部によるアンケート調査「沖縄県那覇市幼稚園幼児の生活実態調査と保護者の理想」(照屋 2014) の報告によると、5 歳男児の遊び時間は 2 時間 58 分あり、そのうち外遊び時間が 56 分、5 歳女児の遊び時間は 2 時間 48 分あり、そのうち外遊び時間は 46 分という結果が出ている。このことから、那覇市の幼稚園児は文部科学省が目安としている 1 日 60 分に近い時間の外遊びをしていることが分かる。なお、本園の指導計画においても 1 日 1 時間以上の外遊びを計画しており、外遊びの時間はほぼ満たしていると考ええる。

本学級の実態としても、ほとんどの幼児が戸外での遊びを好み、思い思いに取り組む姿が見られる。しかし、夢中になって遊び込むまでに至らずすぐに次の遊びに移ってしまう幼児や、友だちとトラブルになると話し合って解決することができず、そのまま遊びを止めてしまう幼児の様子も見られた。これは、体を思い切り動かす心地よさを味わうことや友だちと様々な関わりを持ちながら遊びを展開していく面白さなどの経験が幼児たちに不足しているからだと考えられる。

幼稚園教育要領の領域「健康」の内容の取扱いの中には、「十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること」という一文が付け加えられた。この「十分に体を動かす気持ちよさを体験」させるためには、幼児が興味関心を持って遊びたくなるような環境構成をすることが大切であると考ええる。また、幼稚園教育要領解説では「幼児は、自分の存在を教師や友達に肯定的に受け入れられていると感じられるとき、生き生きと行動し、自分の本心や自分らしさを素直に表現するようになり、その結果、意欲的な態度や活発な体の動きを身につけていく。」と示されている。

幼児が安心して進んで遊びに関わりたくなるためには、幼児が教師や友だちと信頼関係を築き、心の安定を図ることができるような教師の援助が重要であると考ええる。

そこで本研究では、幼児のこれまでの経験と興味を生かし、絵本などから共通のイメージを共有した運動遊びができるように環境構成を工夫したり、幼児自身が認められたり、幼児同士が協力し合ったりできるように教師の援助を工夫する。これらの環境構成や教師の援助を工夫することで幼児が自ら体を動かしたくなるような意欲が高まると考え本テーマを設定した。

II 研究目標

友だちと運動遊びに取り組む活動を通して、自ら体を動かそうとする意欲を高めるための環境構成と援助の工夫について実践研究をする。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 研究内容

1 幼児期における運動と意欲

文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック』においては、「幼児にとって体を動かす遊びなど、思いきりのびのびと動くことは、何事にも意欲的に取り組む態度を養い、健やかな心の育ちも促す効果がある。」と示されている。

このことは、幼児が楽しく体を動かす遊びを通して喜びや充実感を味わうことが、またやりたいという気持ちを生み出したり、心身の健康が保たれたりするなど充実した生活ができるようになることを表していると考えられる。そのためには、幼児が体を動かしてみたいという意欲を高めることが大切であると思われる。

2 意欲を高めるための視点

杉原(2008)は、「本来人間は、自分のもてる力を最大限に発揮して活動したい、自分の能力を向上させたいという欲求をもっていると考えられ、心理学ではこの欲求を内発的動機づけと呼んでいる。」と述べている。また、「社会的動機とは人間関係のなか

から生じてくる動機」としている。「動機を満足させると意欲が高まる」とした杉原(2009)の『保育内容「健康」』を参考に、幼児が自ら体を動かそうとする意欲を高めるための視点として表1にまとめた。

表1 「意欲を高めるための視点」

内発的動機が満足される楽しさ	社会的動機が満足される楽しさ（抜粋）
・今もっている自分の力を出して運動する。 ・新しいやり方や難しいやり方に挑戦する。 ・運動が上達する。 ・自分達でやり方やルールを工夫する。 ・その運動の持つ独自の楽しさを味わう。	・指導者や親や仲間に褒められる。 ・友だちと仲良く協力して運動する。 ・自分の意見が受け入れられる。 ・人から励まされ支援される。 ・人を援助し助ける。

※杉原(2009)『保育内容「健康」』を参考に筆者作成

3 自ら体を動かそうとするための工夫

(1) 環境構成の工夫

幼稚園教育要領において「幼児の活動が精選される環境を構成するには、幼児の興味や関心の在り方、環境へのかかわり方、発達の実情などを理解することが前提である。その上で幼児が興味や関心のある活動にじっくり取り組むことができるだけの時間、空間、遊具などの確保が重要である。」と示されている。

そこで本研究では、時間(じっくり考えたり、じっくり取り組む時間)、空間(思い切り遊べる空間、自分たちでやりたい遊びを考えたり、工夫したりできる空間など)、物(体を動かしたくなる絵本や音楽、興味を引く運動する遊具や掲示物など)、の環境構成を工夫する。また、本学級の幼児はお招き会で踊った忍者の動きに興味を示していたことから、忍者のイメージについて絵本や掲示物等で広がりを持たせ、忍者ごっこ運動遊びを結びつけ実践を行う。

(2) 教師の援助の工夫

穂丸(2003)は、「運動遊びの楽しさには階層性があり(図1)、これらの各段階で人とのかかわりが付加されると楽しさが増幅される」と述べている。そこで、幼児の発達を見とり、興味関心を捉え、幼児同士が関わり合いながら遊びが展開できるように、各階層に沿った教師の援助を行う。そこで、図1の「運動遊びの楽しさの階層構造」を参考に、幼児期の遊びに取り入れ、教師の援助として表2にまとめた。

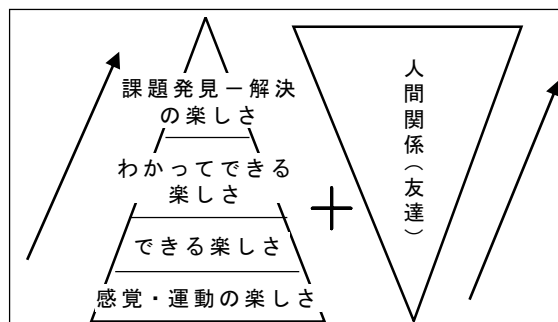


図1 「運動遊びの楽しさの階層構造」
穂丸武臣【引用】

表2 幼児同士の関わりを深めるための階層に合わせた援助

運動遊びの楽しさの階層	教師の援助
感覚・運動の楽しさ	・教師も一緒に遊び、共に楽しむ場を作る
できる楽しさ	・助け合う、励まし合う場を作る ・受け入れられ、認められる場を作る
わかってできる楽しさ	・成長を紹介する場を作る ・楽しく挑戦する場を作る
課題発見・解決の楽しさ	・話し合い、考える場を作る ・課題解決し楽しく挑戦する場を作る

※穂丸(2003) 図1を参考に筆者作成

V 保育実践

1 保育計画

実践		ねらい
実践 1	忍者のイメージを共有しよう	- 忍者の絵本の読み聞かせを通して、色々な忍者や忍術の絵本の世界に触れる。 - 戸外での色々な運動遊びを通して体を動かす。
実践 2	忍者の術を考えよう	- 自分で考えた忍者の遊びが友だちに受け入れられる心地よさを味わう。 - 共有したイメージを持って遊び、友だちと一体感を感じる。
実践 3	忍者になって思い切り遊ぼう	- 忍者ごっこをして、意欲的に体を動かして楽しむ。 - 友だちと一緒に運動遊びを楽しむ。

2 実践 1 (12 月 1 週目)

(1) 教師の援助と環境構成

本学級では、幼児のこれまでの経験とメディア等の情報から、忍者に関心を持っている幼児が多い。そこで実践 1 では、忍者が出てくる絵本の読み聞かせを行い、忍者のイメージを共有しながら、身体を動かすことに積極的ではない幼児も関わるようにした。教師と一緒に遊び、共に楽しむことで、その運動の持つ独自の楽しさが味わえるようにし、興味を引き出すきっかけを作った。

(2) 幼児の様子

幼児の言葉や様子	○教師の読み取り ☆教師の援助 ◇環境構成
(忍者の絵本読み聞かせの場面) ・「今日の忍者の絵本は何？」 ・「にんじゃサンタ面白かった～！もう 1 回読んで！」  ・「朝来たら、忍者の絵本、見てもいい？」 ・「おれも見ようっと！」	○忍者の絵本を楽しみ、忍者の興味が高まっているのを感じる。多数の絵本や図鑑の準備をする。  ◇忍者の絵本や図鑑のコーナーを作る。 ○忍者コーナーに関わる幼児が増え、忍者ごっこを楽しんでいる様子が見られる。
(友だちと縄跳びをする場面) ・A 児「先生、見て見て！」 「もっと上手になったら見せるからね！」 ・B 児「先生！何回跳べるか数えてね！」 「次はもっと跳べると思う！」	○上手になったことを褒めてもらいたい、褒められると嬉しくてもっと見てもらいたいという気持ちになっていると感じられる。 ☆他児に声をかけ、友だちの楽しんでいる様子を紹介する。 ☆様子を紹介することで、他児のやってみようという気持ちを引き出す。
(教師と 2 人縄跳びをする場面) ・C 児「(教師と一緒に)じゃあ、やってみる！」  ・C 児「できた！！初めてやったけどできた。もう 1 回やりたい！」	○身体を動かすことに積極的ではない C 児だが、教師と一緒に(2 人跳び)ならやるのではないかな。 ☆C 児を誘い、教師と 2 人縄跳びをする。 ○できないと思っていたことができたことに驚きと喜びの表情が見られた。

(3) 考察

運動遊びでは、一人ひとりの思いを受け止めながら「一緒に見よう！」「一緒に数えてみよう！」と幼児同士をつないだり、教師が運動遊びに誘ったりしたことで「次

はもっと跳べると思う！」,「もう1回やりたい！」という言葉が聞かれ、意欲の高まりを感じた。絵本の読み聞かせでは、忍者の術が多く出てくる、早く走る忍者、高く跳ぶ忍者など多数の絵本を準備したことで、多くの幼児が興味を示し、忍者のイメージを共有することができた。しかし実践1では、共有した忍者のイメージを運動遊びに取り入れることが上手くできなかった。

そこで実践2では、友だちと話しあいが生まれやすいように、園庭の大きな地図や視覚に訴える掲示板を用意し、忍者の術を幼児同士で考えるコーナーを作った。

また、縄跳び回数表示板を媒介にして友だちとの関わりにもつながる展開にしていくこととする。

3 実践2(12月2週目)

(1) 教師の援助と環境構成

実践1では教師と一緒に遊び、共に楽しむことで運動遊びに対する楽しさや嬉しさを味わっている様子が見られた。そこで、実践2では忍者の術を運動遊びと結びつけて幼児同士の関わり合いを広げるための環境構成を工夫した。運動遊びの前に、認められる場、紹介する場、考える場となるように、園庭の大きな地図と自分で考えた忍者の術掲示板を用意した。運動遊びの場面において、幼児同士が、今もっている自分の力を出して運動する、運動が上達する、その運動の持つ独自の楽しさを味わう、楽しく挑戦する場となるように縄跳びたくさんとべたよの術表示板を用意した。

(2) 幼児の様子

幼児の言葉や様子	○教師の読み取り ☆教師の援助 ◇環境構成
(忍者の術を考えたり、相談したりする場面)   「早く走るの術やりた～い！」 「鉄棒で地球周りの術とかさ！」 「フラフープ回すの術も良いんじゃない？」 「オレもやってみた～い！」 「早く走るの術はブランコの前でやろう！」 「そこでやったら縄跳びの人とぶつかるよ～！」 「縄跳びの人は○○に寄ったら良いんじゃない？」 「それがいいね！」	◇園庭の大きな地図を作成し、黒板に掲示する。 ○大きな地図を見ながら会話が弾んでいることから、興味を示している様子が分かる。 ☆運動遊びにつなげることができるように、「忍者の術を考えてみてね！」と声をかける。 ◇「自分で考えた忍者の術掲示板」を出す。 ○いろいろな思いが出てきたので、やり方について考えたり、自分の考えを発表したりしてはどうか。 ☆「だれと一緒にやる?」、「縄跳びはどこでやったら良いかな?」と声をかけて、話し合うきっかけを作る。 ○地図や掲示板を見ながら話すことで、空間のイメージが湧きやすくなり、話し合いがスムーズにできたように感じられた。
(友だちと表示板を使ってやりとりする場面) 「○○が何回跳べるか書くよ！」 「新記録が出たときに書いたら？」 「自分の跳んだものは書いた方がいいっ!!」 「じゃあ、跳んだら書くってことにする？」 「オレは何回もやるから数えてね～」 	☆「縄跳びたくさんとべたよの術表示板」を集会時に見せる。 ○表示板を準備したことで、興味を持って縄跳びをして遊ぶことを楽しんでいる。 ☆近くにいた幼児にも声をかけて、縄跳びに誘う。 ○表示板を通して、友だちの跳んでいる数を数えたり、跳んだ数を書いたりして役割分担しながら、一緒に縄跳びの場を楽しんでいる様子が見られた。 ☆縄跳びに挑戦することや役割分担をして協力して取り組むことを褒める。 ○幼児の笑顔から繰り返し挑戦することで上達する喜びや縄跳び自体の楽しさを感じていることが分かる。

(3) 考察

縄跳びたくさんとべたよの術表示板、自分で考えた忍者の術掲示板を用意したことがきっかけで、互いの考えが表現され、話し合う場となった。幼児にとって自分の考えが受け入れられることや友だちの考えを聞くことで、運動遊びに対する期待が膨らみ、意欲が高まったと考える。また、園庭の大きな地図と自分で考えた忍者の術掲示板を使って忍者の術を紹介する場を設定したことで、挑戦したい運動遊びや遊びの空間の使い方が共有できた。それらの運動遊びを通して、幼児同士が挑戦することを楽しんだり、褒めたり、認め合ったりすることにつながった。他にも幼児同士が応援したり、助け合ったりする場面も見られ、友だちと運動遊びをする面白さを感じることができたと考える。

4 実践3(12月3週目)

(1) 教師の援助と環境構成

実践2では縄跳びたくさんとべたよの術表示板や自分で考えた忍者の術掲示板を使って紹介する場を設けたことで幼児同士の関わりを広げるきっかけを作ることができた。そこで、実践3は、幼児が忍者の術として考えて掲示板に貼った「早く走るの術」が楽しめるように巻物風のバトンを用意した。忍者の手裏剣バッジやスカーフ、パーランクーも準備し、楽しく挑戦する場作りをした。

また、縄跳びでは、友だちとの関わりによって楽しさが増す援助として、幼児同士と一緒に遊んだり教え合ったりできるような声かけをし、学級で紹介する場を設けた。フラフープにおいては、友だちと楽しく挑戦するきっかけの道具としてタイマーを準備した。タイマーを使い、回せる長さの変容を感じることでフラフープを楽しめるようにしたり、友だちと協力し、挑戦するなどの関わりが持てるように幼児の思いに共感し、受け止めたり励ましたりする援助をした。

(2) 幼児の様子

幼児の言葉や様子	○教師の読み取り ☆教師の援助 ◇環境構成
(早く走るの術を楽しんでいる場面) ・バトン、スカーフ、パーランクーなどを見て盛り上がり、大勢集まってくる。 「早く走るの術でリレーやろう！」 「オレは赤忍者チームやりたい！」 「自分は少ないチームに行くよ。」 「赤忍者チーム少ないよ！」 「もっと早く走るの術、やりたい人〜！」 「やる！やる！」 「始めるよ〜。もういいかい？」 「ちょっと待って！スタートって一緒に言おう」 「よーい、スタート！」 「がんばれ、がんばれ〜！」	○絵本で共有したイメージから「早く走るの術」がリレーに発展できるのではないかな。 ◇巻物風バトン、スカーフ、パーランクーなどを準備する。 ☆幼児に「早く走るの術はここだよ！」と声をかける。 ☆幼児同士で楽しめるよう「どんな風にする？」、「どうやってスタートできるかな？」とタイミングを見て声をかける。 ○人数の少ないチームでたくさん走りたい子、違うチームで友だちと同時に走りたい子、号令の係になって応援したい子と、それぞれの思いを出して楽しんでいる。
(繰り返し縄跳びを楽しんでいる場面) A児「D児おいで！練習するよ。」 D児「分かった。今日はいっぱいやろう。」 A児「昨日の3回より多く跳びたいね。」	○D児はA児が縄跳びをする姿を遠くから見ており、やりたそうにしている。 ☆D児と関わりを持たせるようにA児に「D児さんの縄跳び先生になってね！」と声をかける。 ○毎日互いに誘い合い、少しずつ上達していることに喜ぶ言葉があり、楽しんで取り組んでいる様子がよく見られる

(集会で縄跳びを見せる場面) A児「せーのって言ったら跳んでよ！」 D児「うん、わかった！」(失敗…) A児「さっきできたから大丈夫。もう1回。」 D児「うん、わかった。」(成功) 2人「やった！できた！」 (他児も成功を喜んで笑う) A児「みんなに見せて嬉しかった！」 D児「たくさん跳べるようになって良かった！」	☆集会で、縄跳びを披露したり感想を発表する場を設けることで、褒められる嬉しい気持ちを感じさせて向上したくなる気持ちにつなげる。また、紹介することで他児への刺激となるようにした。 ○失敗しても励まされたり、学級の友だちから見守られたりしながら、安心して取り組むことができ、とても喜んでいる。 ○A児は頼りにされたこと、D児は上手になったことを学級で認められ嬉しそうにしている。 ○この様子を見て、刺激を受けた仲良しの幼児同士が一緒にやろうと声を掛け合う様子が見られた。
--	---

(3) 考察

幼児が忍者になりきって「早く走るの術」ができるよう小道具を準備し、楽しい雰囲気作りをしたことが幼児のやりたい気持ちを刺激し、喜んで遊ぶ姿が見られたと考える。また縄跳びやフラフープでは、教師が幼児同士の楽しむ様子や遊びの内容を紹介することで、「○○みたいにできるようになりたい。」「○○と一緒に勝負がしたい。」「面白いからもっと上手になりたい。」という声があがった。そして、互いに運動遊びに誘い合う姿が見られるようになったことは、運動遊びを通して友だちと関わりをもちながら遊びを展開していく面白さを感じたからだと考える。

このように、友だちと力を合わせて遊びを進める面白さ、挑戦し上達する達成感や充実感、自分達で考えてやり方を工夫する楽しさなどを通して、友だちと一緒に体を動かして遊ぶ経験が、次もまたやりたいという意欲の高まりにつながったと考える。

5 個に応じた援助を通して(個の変容から)

E児の実践前と実践後の変容を表3にまとめた。

表3 E児の変容

実践前	教師の手立て	実践後の変容
・製作遊びを好み、戸外に出ても製作遊びに戻りたがる。 ・一人で遊ぶこともよく見られ、戸外で座り込むこともある。	・教師も一緒に遊んだり、E児の遊びに他児を巻き込んだりしながら、タイマーの使用を提案する。 ・運動遊びに興味を持ち始めたので、集会時にE児の発表の時間を設定する。	・フラフープを回せる時間の長さの変容が感じられるようにタイマーを提案したことで、自分の回せる時間の長さに成長を感じながら、興味を持って遊びを繰り返し、自信をつけていた。 ・早く回したり、長く回したりして、フラフープの持つ独自の楽しさを味わっていた。 ・タイマー係をして他児との関わりを持ち、仲良く協力して遊んでいた。 ・複数のフラフープを回したり、強く回してぶつけ合ったりして、互いに挑戦することを楽しんでいた。 ・集会を持ったことで、互いに誘う姿も見られ、友だちとの関わりが増えた。 ・フラフープを通して体を動かす楽しさを味わうことができていた。

VI 研究のまとめ

友だちと運動遊びに取り組む活動を通して、自ら体を動かそうとする意欲を高める環境構成と援助の工夫について全3回の保育実践を行い、友だちと協力し楽しく挑戦しながら、友だちと運動遊びを楽しむ幼児の変容を見ることができた。(表4)

表 4 実践のまとめ

	幼児の実態	手立て	幼児の変容
実践 1	- 外での遊びに夢中になれない幼児がいる。 - 経験したことのない遊びに対して消極的な幼児がいる。 忍者のイメージを広げよう	- 忍者のイメージを共有するために、忍者の絵本の読み聞かせを行う。 - 教師も一緒に遊び、共に楽しむ場を設定する。	- 忍者の絵本や図鑑などを多数準備したことで、幼児同士で忍者ごっこを楽しみ、早く走る、高く跳ぶなどのイメージを共有することができた。 - 運動遊びに誘うことで、やってみたらできたという経験が得られ、運動遊びの楽しさに気づいた。
実践 2	- 運動遊びに興味を持って取り組むようになってきた。 - 運動遊びの楽しさを感じているが、友だちと関わり、力を合わせて遊ぶ姿が少ない。 忍者の術を考えよう	- 自分で考えた忍者の術掲示板、縄跳びたくさんとべたよ掲示板を準備する。 - 園庭の大きな地図を用意する。 - 朝の会や帰りの会などを活用して発表する場を設定する。	- 表示板、掲示板、園庭の大きな地図を見ながら話すことで、互いの考えが伝えやすくなり、考えが共有できた。 - 友だちと関わり合って運動遊びをする面白さを感じていた。 - 考えを発表することで、受け入れられたり、認められたりし、笑顔が見られ、心地よさを感じていた。
実践 3	友だちを誘い合って運動遊びをするようになってきている。 忍者になって思い切り遊ぼう 	- 忍者になりきる小道具などを用意する。 - 話し合い考える場となるよう声をかける。 - 友だちとの関わりでできるようになった運動遊びを紹介する場を設定する。 - タイマーを準備し、変化や目標を見つけやすくする。	- 道具を用意したことで、同じ遊びを楽しみ、ルールを決めたり、挑戦する楽しさを味わうことができた。 - 役割分担も幼児同士で声をかけ合って協力して楽しむことができた。 - 集会で友だちとの遊びを紹介したことで、幼児が励まし助け合い、温かく見守ることができた。 - 友達の上達した姿を見て、刺激を受け、仲良しの友達と誘い合い、運動遊びに取り組む様子が見られた。 - タイマーの活用がきっかけとなり、自分自身や友だちの成長を感じ、技を磨いたり友だちと楽しく挑戦する姿が見られた。

Ⅶ 成果と課題

1 成果

- (1) 幼児は、運動遊びを通して、友だちに受け入れられたり、励まされたり、協力したりしながら互いに関わりを持つことで、友だちと遊びを展開する面白さを感じ、意欲的に運動遊びをすることが検証できた。
- (2) 時間・空間・物を工夫し運動遊びと結びつけ、友だちと助けあったり挑戦し合ったりすることで、運動遊びの楽しさや充実感を味わわせることができ、自ら体を動かそうとする意欲を高める手立てとなった。

2 課題

様々な遊びに興味を持つ幼児がいることに考慮しながら、幼児自身に体を動かすことに興味を持たせるような環境構成や教師の援助の工夫が必要である。

《参考文献・引用文献》

『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館	2008
『幼児期運動指針ガイドブック』	幼児期運動指針策定委員会	文部科学省	2013
『保育内容「健康」』	河邊貴子 柴崎正行 杉原隆編	ミネルヴァ書房	2009